

宮城県医師会記者会見要旨

日 時：令和3年1月14日（木）午後4時～

場 所：宮城県医師会館

1. 感染者の約6割を占める20代、30代などの若い世代に、外出を控えてもらい、家族内感染などを抑制するためには、如何に伝達すべきか
◎今の一番やるべきことは、感染者を可能な限り抑えることです。そのためには、この年代の方々に危機感を如何にして持っていただき、行動の変容をお願いできるかにかかっています。
2. 1月13日に宮城県庁で「ストップ！コロナ差別」共同宣言を出しましたが、医療側からも改めて県民の皆様方へ、お願いしたいこと
◎コロナとの闘いに日夜取り組んでいる医療従事者に対して、差別的な言葉を言ったり行動をとることは、医療従事者の心を折りリタイアを招き、ますます医療の混乱を招きます。是非、おやめ頂きたく、お願いします。
3. 医療崩壊というが、民間病院がコロナ患者さんを受け入れれば、問題解決するのではないか、といった論調が最近一部にみられますが、医療は役割分担であり、ご理解願いたいこと
◎民間病院や医師会が悪いという論調には、到底納得がいきません。医療は役割分担です。是非ご理解ください。民間中小病院もコロナ患者さんの後方支援病院として機能しますし、開業医の3分の1もPCR検査に協力しています。なお、コロナの入院を扱う病院の実数は、公的、公立、民間とも大きな差異はありません。民間病院は、中小病院が多く大病院は少なく、そのために扱う病院の割合が低くなっています。